



今週の T2 経済レポート

2020年12月11日

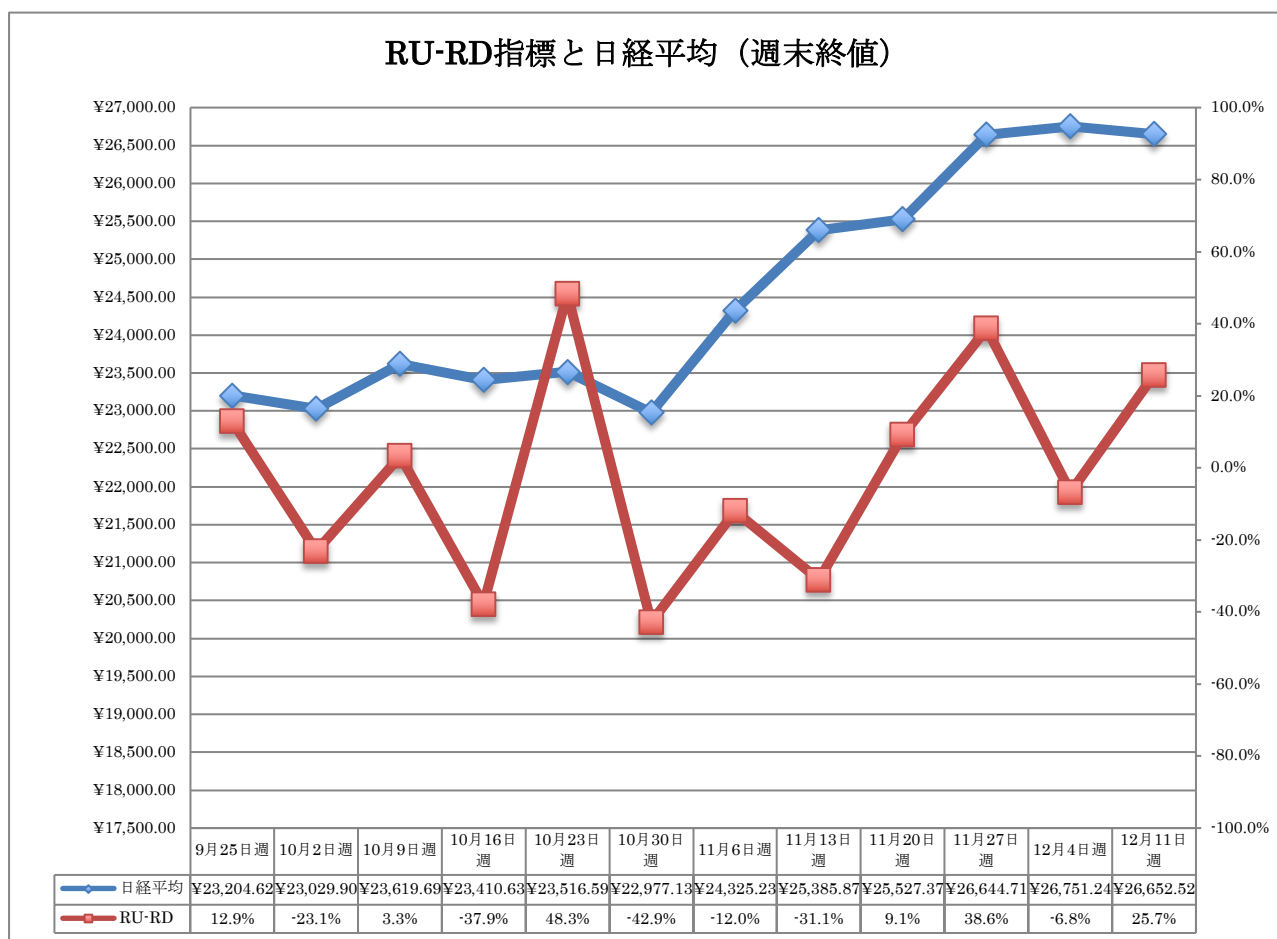
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は先週、急落調整が起きなかったことで急反発の可能性が小さくなった週となりそうです。今週(12/7~12/11)の相場を占う『RU-RD指標』の11月27日週は+25.7%と再び、プラス圏に浮上したことから本来なら急反発が期待されるかたちですが、先週『今週、急落調整が起きれば、来週は急反発が期待されるかたちですが、今週末12月4日に毎月恒例イベントの米雇用統計、さらに来週末11日にメジャーSQを控えていることから投機筋の外国人が売り・買いどちらかに仕掛けをしやすいスケジュールとなっていることから株価操作に要注意な時間帯に入りそうです。』と指摘したように、今週末のメジャーSQを意識した買いで急落調整が起きなかったため、今週の急反発の可能性も小さくなったかたちです。来週(12/14~12/18)の相場を占う12月4日週は+7.5%と2週連続プラス圏となったことから堅調相場が継続しそうです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、7日に10月景気動向指数、8日に10月家計調査、10月毎月勤労統計調査、7-9月期GDP確報値、11月景気ウォッチャー調査、9日に11月マネーストック、10月機械受注、10日に10-12月期法人企業景気予測調査、11月国内企業物価指数、一方、海外は、7日に米10月消費者信用残高、中国11月貿易収支、9日に中国11月生産者物価・消費者物価、10日に米11月消費者物価、11日に米11月生産者物価、米12月ミシガン大学消費者マインド指

数が予定されています。10日発表の11月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.1%、コア指数は同+1.5%とインフレ率は10月実績をやや下回る見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は11日にメジャーSQ算出日、海外は、8日に米大統領選挙における州の選挙結果の認定期日、選挙人を指名、10日にECB定例理事会(ラガルド総裁会見)、EU首脳会議(11日まで)、11日に米、新型コロナワクチンの優先接種見通しが予定されています。特に、8日の選挙人指名は大統領選挙が混迷を深めていることから注目されます。」とコメントしました。



11月20日週	11月27日週	12月4日週	12月11日週
¥25,527.37	¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52
9.1%	38.6%	-6.8%	25.7%

先週の日経平均は、高値 26894 円(12月7日)・安値 26327 円(12月8日)と推移、3週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、FDA(米食品医薬品局)がファイザーが開発する新型コロナワクチンの有効性に良好な見解を示したことに加え、英国で同社開発のワクチン接種が始まったことも好感されて 27000 円目前まで上昇しましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う規制強化

や米国の追加経済対策を巡る与野党の対立を受けて年内の合意成立への期待が後退したことで下値目標値を達成、週間ベースで-99円安と小幅ながら6週間振りに反落して終了しています(先週予告していた上値メド 27309円~27855円(+2%かい離)//下値メド 26566円~26034円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、11月25日に26500円大台替えで仕切り直しが入りました。27000円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、26000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、11月15日までに26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。27000円大台替えで仕切り直し、逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、11月中に27000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。28000円大台替えで仕切り直し、逆に、25000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→となり、再び短期が強含みとなりましたが、中長期は方向感がなくなり、目先の上昇の勢いが無くなると乱高下しやすいかたちに変化しています。

日経平均を左右するNYダウは、高値30319ドル(12月9日)・安値29820ドル(12月11日)と推移、3週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、新型コロナウイルス感染症予防のワクチン接種の年内開始への期待から上値目標値を達成しましたが、その一方で、米国における感染拡大に対応して一部で経済的な規制が強化されていること、米追加経済対策法案の成立が来年以降になることが避けられないとの見方が増えていることから週間ベースでは-172ドル安と3週間振りに反落して終了しています(先週予告していた上値メド 30288ドル~30893ドル(+2%かい離)//下値メド 29522ドル~28931ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、12月1日に30000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。30500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、29500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、11月14日までに30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、11月中に31000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯でしたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→、となり、中長期が方向感なく乱高下しやすいなかで、目先、上下しているかたちで、方向感が出るまでこのような乱高下のかたちが継続しそうです。

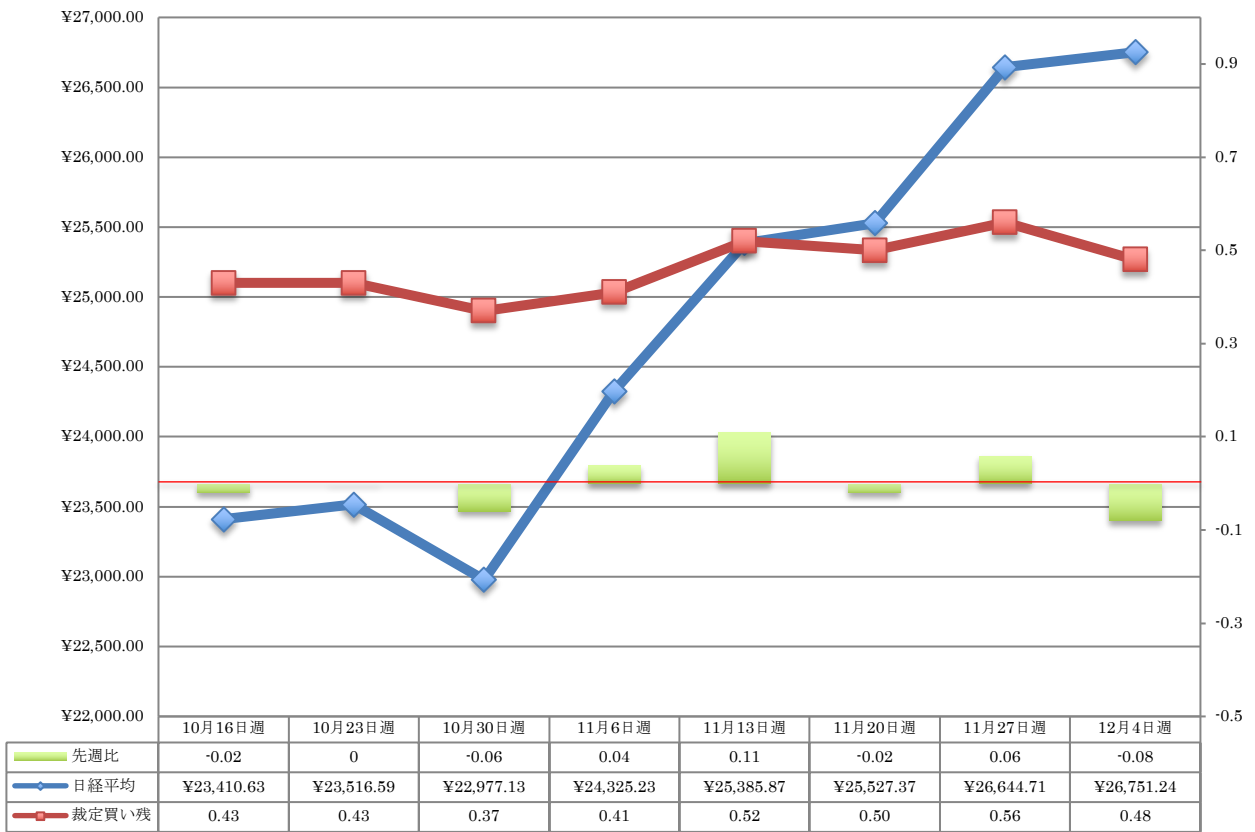
一方、為替は、ドル・円が104.57円~103.81円(先週予告していた上値メド 104.76円~105.80円(+1%かい離)//下値メド 103.58円~102.54円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週が3週連続で起きていますが、実質3週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.2166~1.2057(先週予告していた上値メド 1.2126~1.2247(+1%かい離)//下値メド 1.2018~1.1897(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成する2週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ

円は、126.74 円～125.75 円(先週予告していた上値メド 126.35 円～127.61 円(+1%かい離)//下値メド 125.04 円～123.78 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成する2週連続の2週連続で円安・ユーロ高。前の週のユーロ>円>ドルが2週連続で継続しています。欧州中央銀行(ECB)は12月10日開いた理事会でパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)を5000億ユーロ増額し、期間を9カ月延長することを予想通り決定したことで欧州景気の持ち直し期待が強まり、リスク選好的なユーロ買いが継続しましたが、英国が通商合意なしのEU離脱を実行する可能性が高まったことでユーロ買いは縮小し始めています。

<裁定買い残・裁定売り残>

前の週と異なり減少、4週連続で増減を繰り返しています。3月23日週に今年1月以来となる7000億円台に回復後、反動減がまだ続いている状況です。一方、「裁定売り残」は、前の週比+746億円の1兆6893億円と、4週間振りに増加。3週間で4234億円減少し、今回の日経平均が29年振りに26000円大台を回復した牽引役の一つとなっていました。早くも買い戻しが終了したのか見極める段階です。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

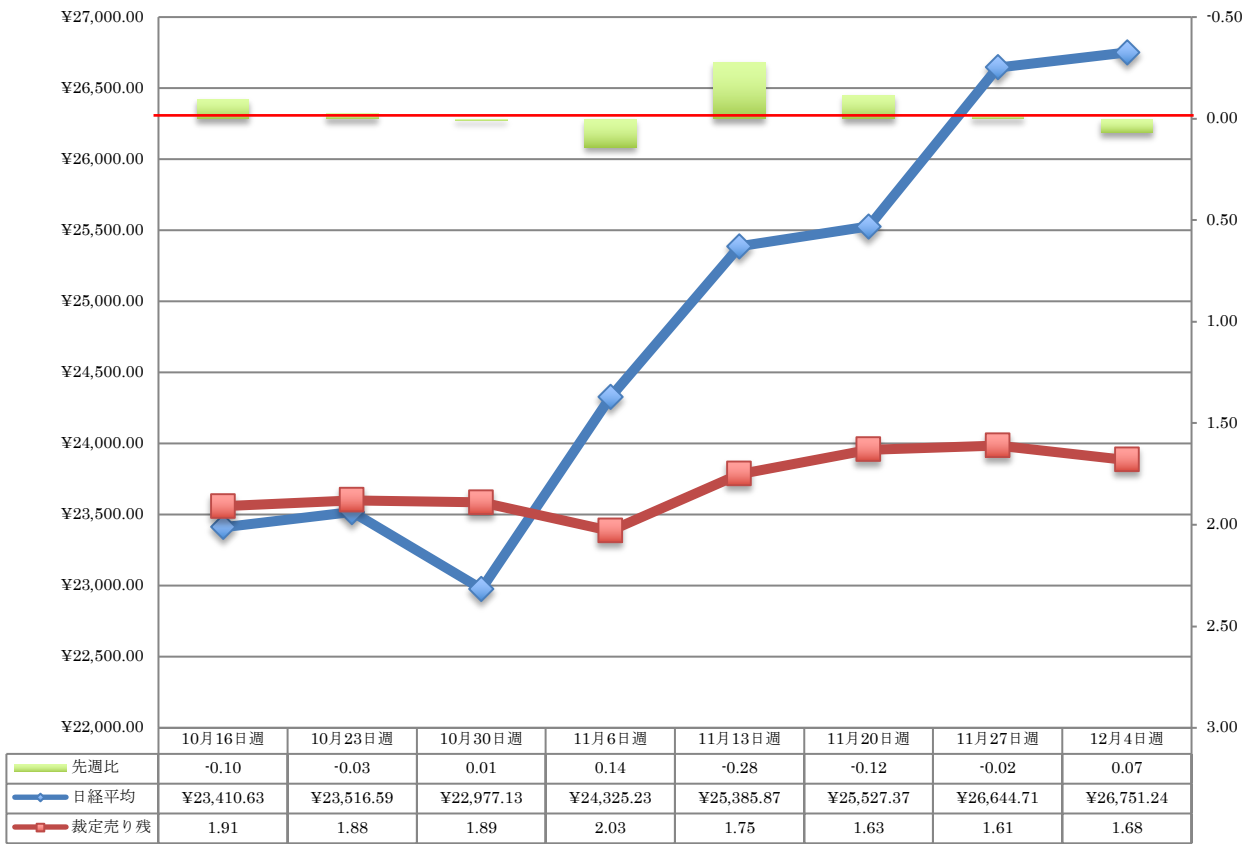
裁定買い残と先週比



11月13日週	11月20日週	11月27日週	12月4日週
¥25,385.87	¥25,527.37	¥26,644.71	¥26,751.24
0.52	0.5	0.56	0.48
0.11	-0.02	0.06	-0.08

単位:兆円

裁定売り残と先週比



11月13日週	11月20日週	11月27日週	12月4日週
¥25,385.87	¥25,527.37	¥26,644.71	¥26,751.24
1.75	1.63	1.61	1.68
-0.28	-0.12	-0.02	0.07

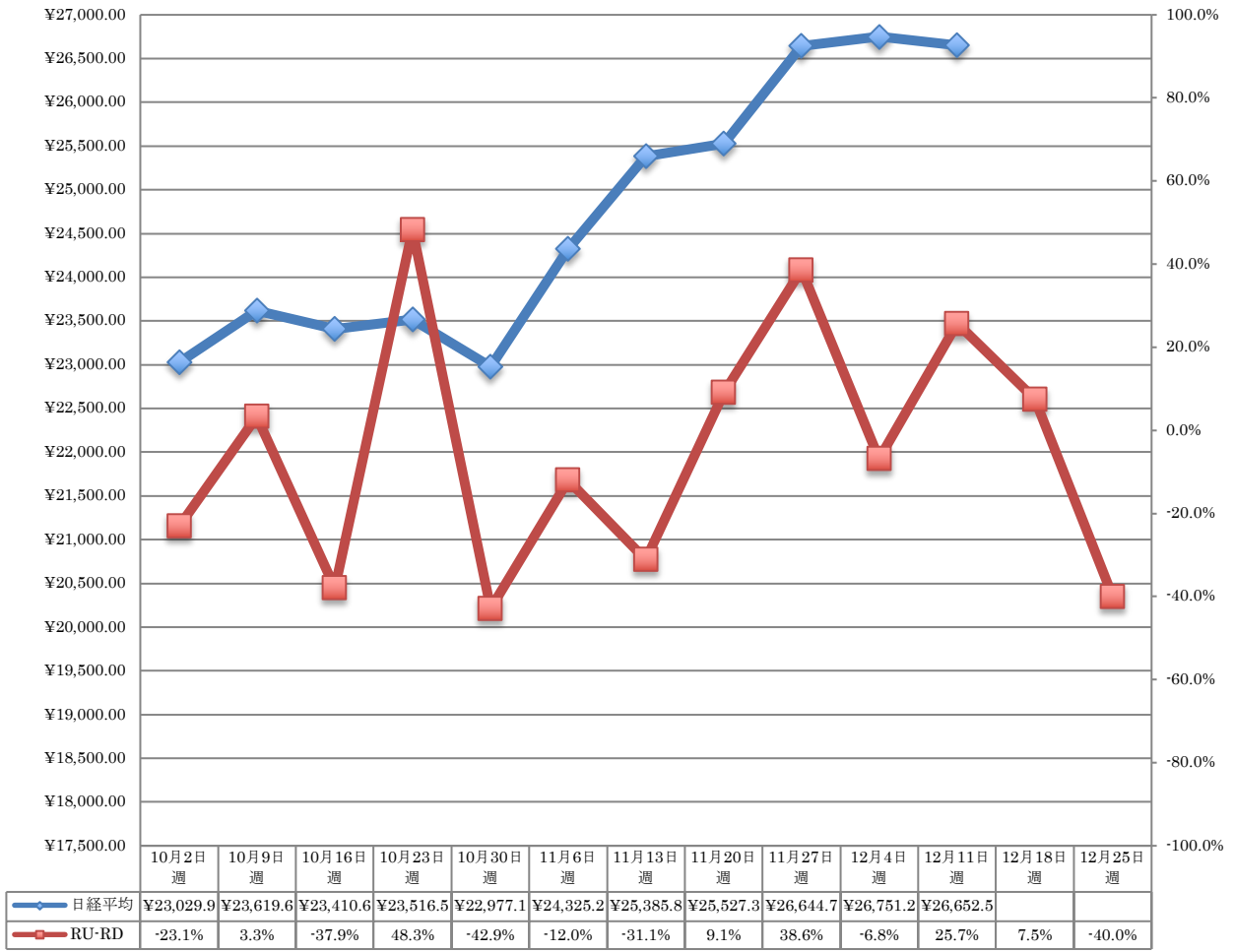
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場が継続する可能性が高い週となりそうです。今週(12/14~12/18)の相場を占う『RU-RD 指標』の12月4日週は+7.5%と2週連続プラス圏となったことから堅調相場が継続しそうです。ただ、来週(12/21~12/25)の相場を占う12月11日週は-40.0%と3週間振りにマイナス圏、かつ下限ゾーンまで一気に陥ったことで急落調整の可能性が出てきています。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+7.1%→11月20日週+30.0%→11月27日週+25.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%と18週連続プラス圏ですが、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなカタチで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、14日に12月調査日銀短観、10月第三次産業活動、16日に11月貿易統計、11月訪日外客数、17日に11月首都圏新規マンション発売、18日に11月全国消費者物価指数、一方、海外は、15日に米12月NY連銀製造業景気指数、米11月輸出入物価、米11月鉱工業生産・設備稼働率、中国11月工業生産・11月小売売上高、16日に米11月小売売上高、米12月NAHB住宅市場指数、17日に米11月住宅着工件数、米11月建設許可件数、米12月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、18日に米7-9月期経常収支、などの発表が予定されています。16日発表の11月小売売上高は前月比-0.2%と、10月の同+0.3%から悪化する可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は17日に日銀金融政策決定会合(18日まで)、18日に黒田日銀総裁会見、一方、海外は、14日に米大統領選挙の選挙人による投票、欧州議会本会議(17日まで)、15日にFOMC(米連邦公開市場委員会、16日まで)、16日にパウエルFRB議長会見(経済見通し発表)と注目イベントが続く予定です。特に、14日に米大統領選挙の選挙人による投票を迎えますが、混迷続く米大統領選挙の行方を占ううえでもスムーズに投票されるのかが注目されます。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



12月4日週	12月11日週	12月18日週	12月25日週
¥26,751.24	¥26,652.52		
-6.80%	25.70%	7.50%	-40.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 27113 円～27655 円 (+2%かい離)

下値メド 26459 円～25929 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 30520 ドル～31130 ドル (+2%かい離)

下値メド 29741 ドル～29146 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 104.61 円～105.65 円 (+1%かい離)

下値メド 103.64 円～102.60 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2287～1.2409 (+1%かい離)

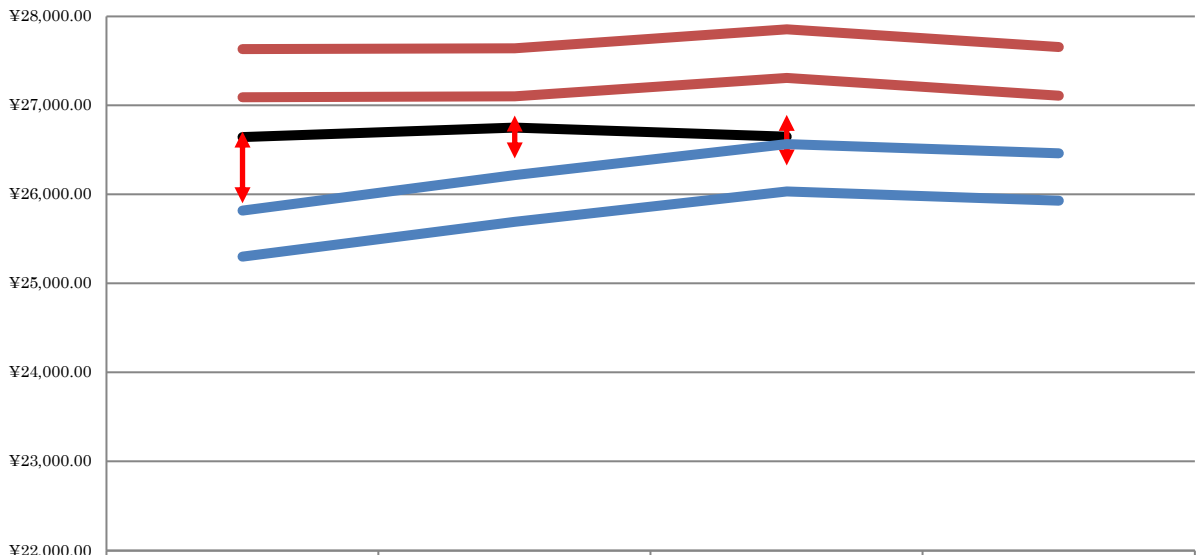
下値メド 1.2091～1.1970 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 127.79 円～129.06 円 (+1%かい離)

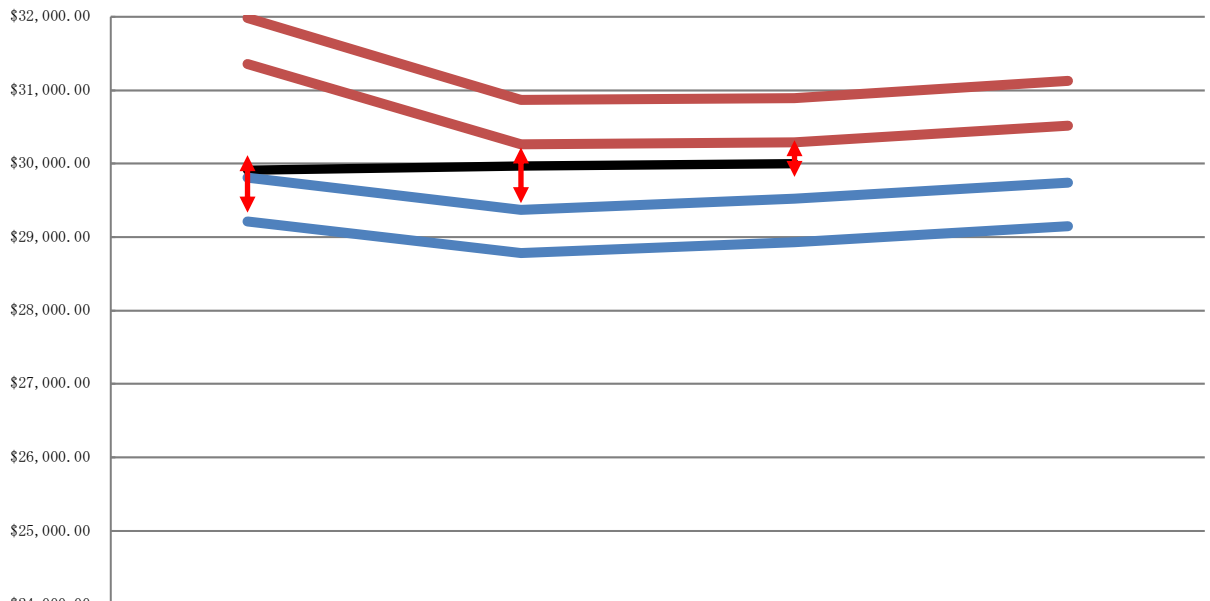
下値メド 126.08 円～124.81 円 (-1%かい離)

日経平均



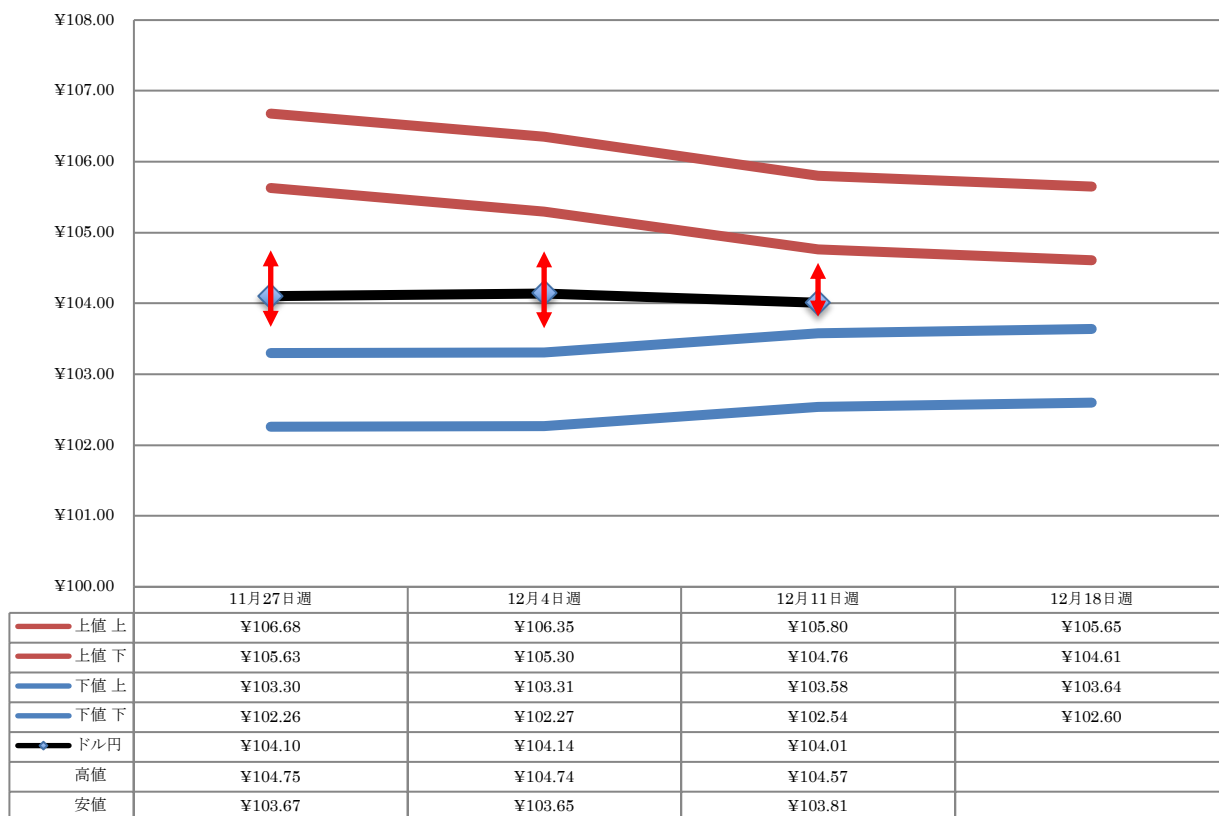
	11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
— 日経平均	¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52	
— 高値	¥26,706.42	¥26,889.90	¥26,894.25	
— 安値	¥25,901.45	¥26,405.83	¥26,327.08	
— 上値 上	¥27,633	¥27,643	¥27,855	¥27,655
— 上値 下	¥27,092	¥27,101	¥27,309	¥27,113
— 下値 上	¥25,819	¥26,219	¥26,566	¥26,459
— 下値 下	¥25,302	¥25,694	¥26,034	¥25,929

NYダウ

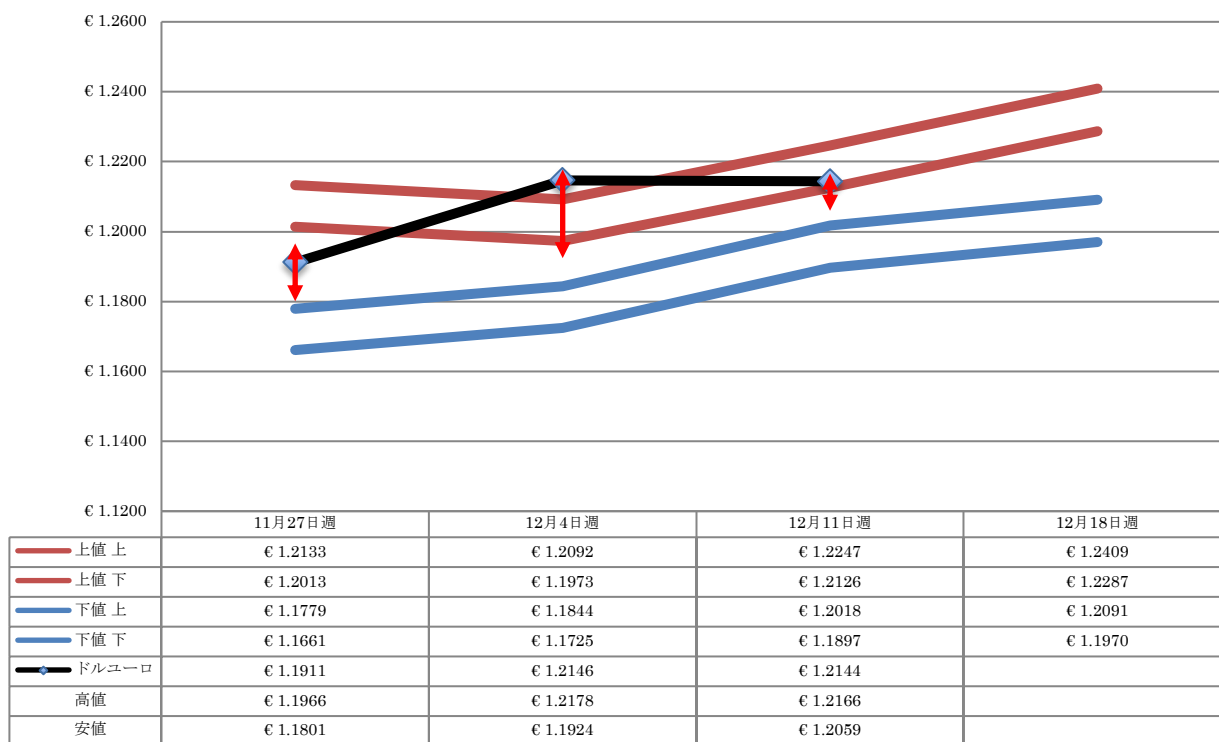


	11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
— NYダウ	\$29,910.37	\$29,969.52	\$29,999.26	
— 上値 上	\$31,984	\$30,868	\$30,893	\$31,130
— 上値 下	\$31,357	\$30,263	\$30,288	\$30,520
— 下値 上	\$29,809	\$29,370	\$29,522	\$29,741
— 下値 下	\$29,212	\$28,782	\$28,931	\$29,146
— 高値	\$30,116.51	\$30,218.26	\$30,319.70	
— 安値	\$29,332.82	\$29,463.64	\$29,820.84	

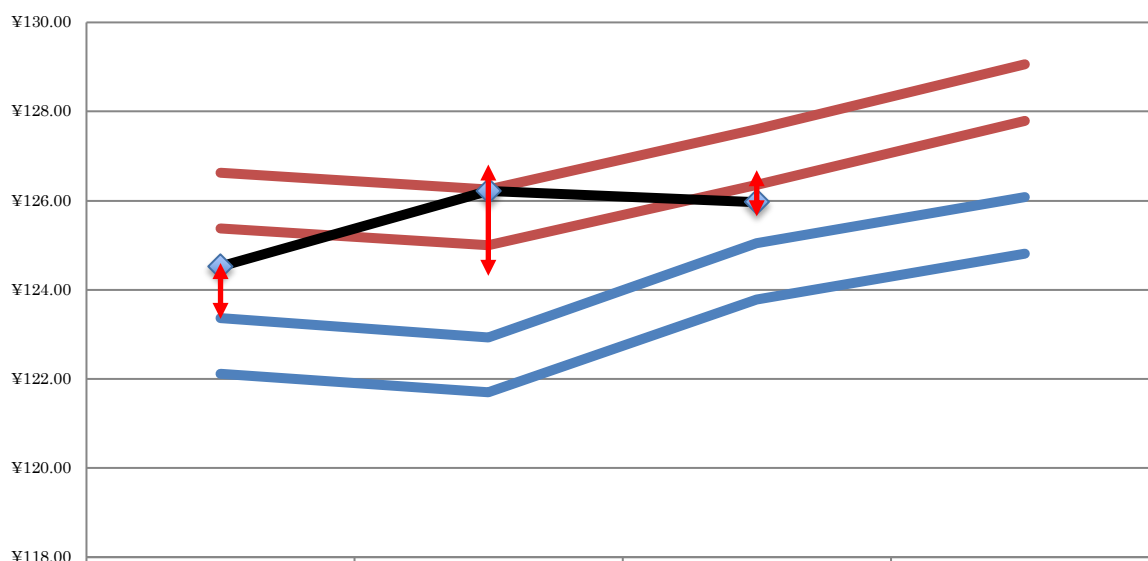
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

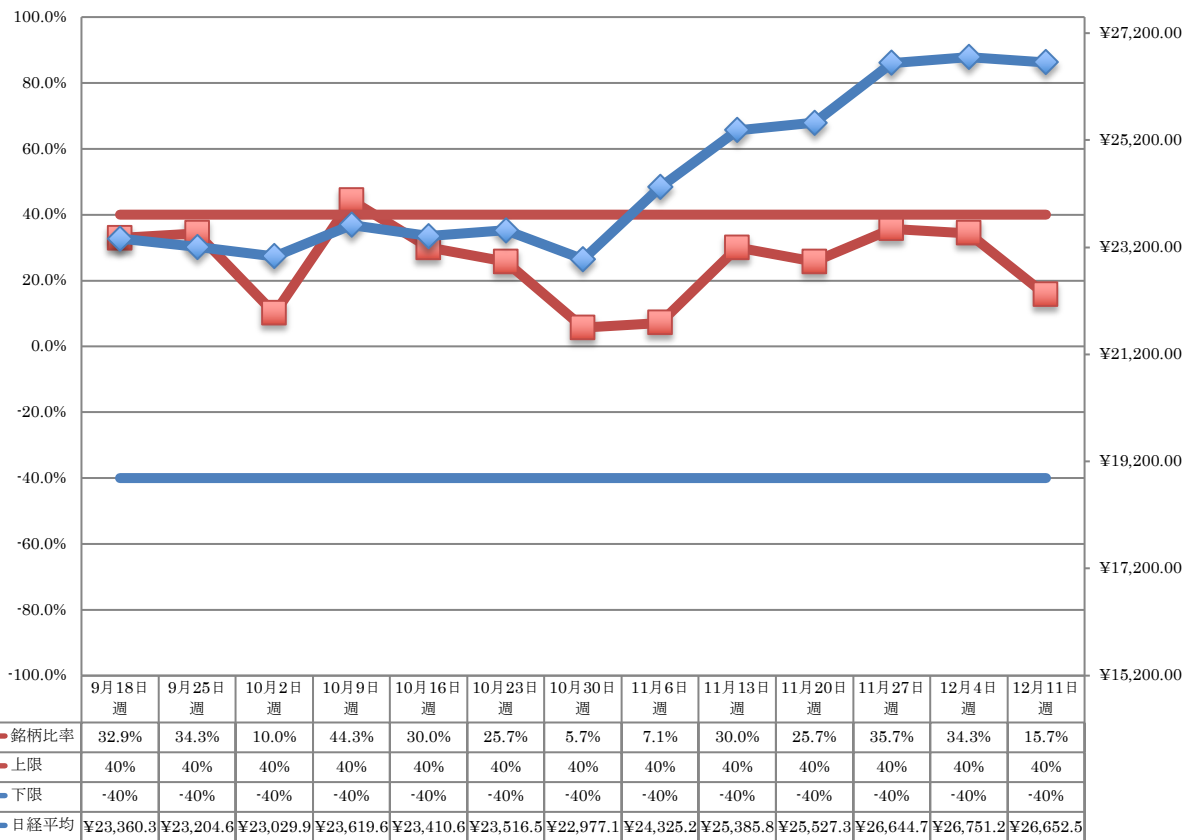


	11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
上値上	¥126.63	¥126.25	¥127.61	¥129.06
上値下	¥125.38	¥125.00	¥126.35	¥127.79
下値上	¥123.36	¥122.93	¥125.04	¥126.08
下値下	¥122.12	¥121.70	¥123.78	¥124.81
ドルユーロ	¥124.52	¥126.22	¥125.97	
高値	¥124.60	¥126.81	¥126.69	
安値	¥123.35	¥124.31	¥125.65	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%と18週連続プラス圏ですが、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。